

学校だより 安佐北

修学・克己・敬愛

広島市立安佐北中学校・高等学校

TEL 082-818-0656-0600 FAX 082-818-5140
web http://www.asakita-h.edu.city.hiroshima.jp

平成 25 年度
第 5 号
12月20日
(師走)
(DECEMBER)

『子曰、徳不孤、必有鄰。』(論語)

「子曰わく、徳は孤ならず。必らず隣あり。」

孔子がおっしゃいました、
「徳の備わっている人間は孤立する事は無い。必ず仲間がいるものだ。」



12月20日誕生花
クリスマスローズ

◎ 5年修学旅行 12月3日(火)～12月6日(金)

関東方面に3泊4日で研修に行きました。

100名の生徒の希望に
合わせ18のグループに
分かれて研修を行いました。
主な研修先は、以下の
通りです。

《大学》東京外大、東京
農工大、首都大学東京、
稲田大学、明治大学、
青山学院大学

《研究施設等》代々木病
院、聖路加国際病院、
理化学研究所、アステ
ラス製薬筑波研究所、

JAXA、上野動物園、国立科学博物館、フジ
テレビ本社、日本印刷博物館、金融研究所、東
証、セブンイレブン本社、国立新美術館、国会
議事堂、警視庁本部、法務省旧日本館



東京海洋大学、早



◎ 2年修学旅行 12月3日(火)～12月5日(木)

キャリア教育の一環として、日本経済の中核
である東京での企業訪問等を班別自主研修とい
う形で実施しました。また、全員で国会議事堂、
皇居、六本木ヒルズ、東京スカイツリー、浅草
を訪ねました。



◎ 平成25年度全国学力・学習状況調査

平成25年4月24日(水)に、中学校3年
生を対象として、「平成25年度全国学力・学
習状況調査」が行われました。調査は、文部科
学省が調査対象として抽出した学校と、希望利
用による学校で行われました。本年度、本校は
希望により、調査に参加しました。内容につ
いては国語A、国語B、数学A、数学Bの教科
に関する調査と、学習意欲、学習方法、学習環
境、生活の諸側面等に関する調査が実施されま
した。昨年度実施された理科は、3年に1度と
いうことで、本年度は実施されませんでした。
このほど、その調査結果が発表されましたので、
国語、数学の教科について報告します。

傾向としては、国、広島県とともに、昨年度
同様、AがBに比べ平均正答率が高く、知識
・技能が身につけているけれども、知識・技能
を活用することに課題があるようです。今後と
もさらなる学力向上に努めるとともに、生徒一
人一人の弱点を見つけ、その補強に努めていき
ます。

本校の定着状況と課題

国語 【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	本校
話すこと・聞くこと	77.6	78.4	90.7
書くこと	64.5	66.2	88.1
読むこと	80	80.3	97.2
言語事項	77.5	77.4	89

国語B

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	本校
話すこと・聞くこと	—	—	—
書くこと	62.7	65.2	84.6
読むこと	67.8	69.5	88.5
言語事項	64.6	66.8	79.5

・A問題では、全国平均、県平均を20ポ
イント前後も上回っており、どの領域も基礎的な力
が定着していると考えられます。更に今年度は、
国語の無解答が本校では一問もありませんで
した。どんな問題にもあきらめずに取り組んでい
こうとする意欲の表れです。また、知識・技能
を活用するB問題でも、いずれの領域におい
ても15ポイント以上回っています。しかし、話
し合いの場面で司会者がどのような言葉で話し
合いを進めていくか、適切なものを選ぶ問
いについての正答率が、他の問いと比較してやや
低い点が目立ちました。生徒の多くが司会者とし
ての経験値が低いことや、実際的な場面におい
てどのように「話す」ことが有効であるかとい
った実践をする機会が少ないことが要因と思わ
れます。国語の授業の中でも「話す・聞く力」
を育てる場面を、意識的に創ることが今後の改
善課題です。

・日頃の授業の中で、自分の考えを言葉で発
する時間を確保し、相手の話をしっかり聞いて、
自分の考えを持つという授業規律の基本も引き
続き大切にしていきたいと考えています。

数学 【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	本校
数と式	72.7	74.1	93.9
図形	64.6	65.7	90.4
数量関係	58.7	59.4	82.6
資料の活用	46.8	48.9	70.5

数学B

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	本校
数と式	41.7	44.9	74.4
図形	44.8	44.9	66.7
数量関係	40	41.6	68.8
資料の活用	42.2	43.9	64.5

・A問題において、全国平均、県平均を、数と
式の領域では、ほぼ20ポイント、その他の領
域では20ポイント以上上回り、概ね計算力、
表現力は定着しています。数量関係、資料の活
用がやや低いものの、全国、県平均に比べると、
大きく上回っています。

B問題では、正答率自体はA問題に比べ低
いものの、A問題以上に両平均を上回っており、
多くの生徒に、自ら考え、問題解決していく力
が定着していると考えられます。

【課題】

数量関係領域における関数の概念や、資
料の活用についての定着が不十分のようです。
記述式の問題に対する正答率が低く、解き方は
理解できているが、考え方を説明できない生徒
が多いようです。日々の授業の中で、結果では
なく、過程を重視し、説明する場面を多く取り
入れていく必要があると考えます。関数に関し
ては、各学年で学習しますので、その都度、概
念を再確認していきたいと思えます。資料の活
用については、年度の終わりの単元で、取り扱
う時間が少なくなりがちなので、計画的に時間
を確保し、十分な演習を行うとともに、次年度
でも復習していきたいと思えます。

また、A問題においては、90%の定着状況
になるよう、毎日の家庭学習にドリルを取り入
れながら、基礎基本の定着を目指したいと思
います。

◎ 全国コンクール 金賞(第一席)受賞

■ 笠原 綺華 (広島県広島市立安佐北中学校 3年)
「第57回全国学芸サイエンスコンクール」
に全国より111,332点の応募作品があった中、
書道部門〔中学生の部〕で笠原さんの作品がみ
ごと特別賞・金賞(第一席)に入賞しました。

賞名: 金賞

部門: 書道部門

作品名: 「感」

また、学校として学校特別奨励賞の「フジレ
ビ学校特別奨励賞」をいただきました。

各部門の金賞受賞者は、来年3月7日に、ホ
テルオークラ東京での第57回表彰式・受賞パ
ーティーに招待されています。

書道部門 〔中学生の部〕	金賞	■ 笠原 綺華 (広島県広島市立安佐北中学校 3年)
	銀賞	■ 宝来 奈葉子 (広島県広島市立三和中学校 3年)
	銅賞	■ 千葉 優稀 (岩手県一関市立山目中学校 2年)
入選		■ 清水 梨音 (宮城県仙台市立南中山中学校 3年)
		■ 大町 健斗 (岐阜県各務原市立川島中学校 3年)
		■ 宝来 梨紗子 (広島県広島市立三和中学校 3年)
		■ 火村 遥 (広島県広島市立祇園中学校 2年)
		■ 白本 亜美 (広島県広島市立祇園中学校 1年)
		■ 唐澤 友紀 (千葉県市川学園市川中学校 3年)
		■ 平井 愛澄 (広島県呉市立両城中学校 3年)
		■ 空 一将 (広島県 広島大学附属中学校 2年)
		■ 木田 くるみ (福岡県いわき市立大野中学校 2年)
		■ 大島 久美 (福岡県 中村学園女子中学校 2年)